

# 未来を見据えた人材育成

令和3年12月27日

経済産業大臣

萩生田 光一

# 産業界が必要とする技術者の育成

## (シリコンアイランド九州の復活に向けた半導体人材育成の取組)

- 半導体受託製造最大手のTSMCは、熊本県に子会社「JASM」(\*)を設立すると発表。
- 約1,500人の先端技術に通じた人材の雇用が見込まれる。今後、ジョブディスクリプションの作成等を通じて、具体的な人材像やスキルセットを詳細に整理。
- それに基づき、教育機関が人材育成プログラムを作成し、必要な人材育成や確保を図る。

\*Japan Advanced Semiconductor Manufacturing

### 人材ニーズと対応の方向性

#### 人材ニーズ

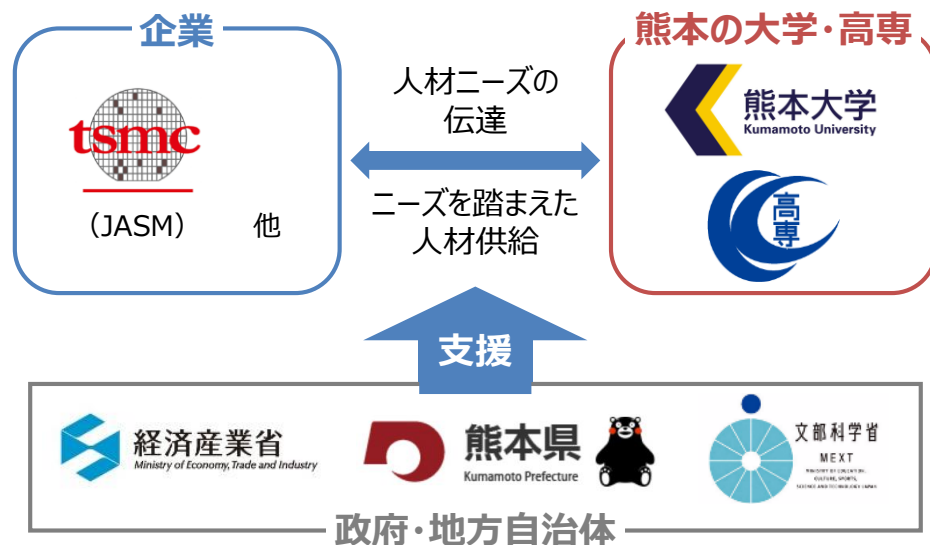
- 設計やプロセスインテグレーションのエンジニア
  - 設備・装置保全のエンジニア
  - オペレーター
- ⇒ 今後、具体的な人材像やスキルセットを整理

#### 対応の方向性

- 九州の8高専でエンジニア・プログラマ等を育成  
来年度を念頭に、カリキュラム策定協議会を立ち上げ。
- 半導体教育・研究センターの立上げ（熊本大学）  
企業ニーズと大学シーズを繋げるコーディネート研究  
人材等を招聘し、半導体分野の教育・研究を統括。
- 技術大学セミコン人材トレーニングセンターの整備  
実習棟を改修し、技術者の人材育成プログラムを実施。

### 当面の進め方

- まずは熊本で、人材育成コンソーシアムを産学官  
一体で組成し、半導体人材育成の強化を図る。
- その後、横展開し、シリコンアイランド九州の復活へ。



# 経済産業省「未来人材会議」

- デジタル化の加速度的な進展と、「脱炭素」の世界的な潮流は、これまでの産業構造を抜本的に変革するだけでなく、労働需要のあり方にも根源的な変化をもたらすことが予想される。
- 今後、知的創造作業に付加価値の重心が本格移行する中で、日本企業の競争力をこれまで支えてきたと信じられ、現場でも教え込まれてきた人的な能力・特性とは根本的に異なる要素が求められていくことも想定される。
- 日本企業の産業競争力や従業員エンゲージメントの低迷が深刻化する中、グローバル競争を戦う日本企業は、この事実を直視し、必要とされる具体的な人材スキルや能力を把握し、シグナルとして発することができているか。そして、教育機関はそれを機敏に感知し、時代が求める人材育成を行えているのか。
- かかる問題意識の下、2030年、2050年の未来を見据え、産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿を示すとともに、採用・雇用から教育に至る幅広い政策課題に関する検討を実施する。

## 委員

- 大島 まり 東京大学大学院情報学環／生産技術研究所 教授
- 岡島 礼奈 株式会社ALE 代表取締役CEO
- 木村 健太 広尾学園中学校・高等学校 医進・サイエンスコース統括長
- 南場 智子 株式会社ディー・エヌ・エー 代表取締役会長
- 東原 敏昭 株式会社日立製作所 執行役会長兼CEO
- 柳川 範之 東京大学大学院経済学研究科 教授

# 「未来人材会議」における論点と対応の方向性

- 産業界（川下）と教育機関（川上）を一気通貫させる形での人材育成の在り方や、雇用・労働を巡る論点を扱う。

## 論点の例

### 人材育成

- 産業界は、産業構造転換の末に必要な人材像を把握し、教育機関にニーズとして示しているか。
- 教育機関は、産業界のニーズを受け止め、実社会で活躍する人材を育成できているか。
- 地域の現場人材についても、将来に向けた育成の議論が必要ではないか。

### 雇用・労働

- 企業は、国内外の優秀な人材を確保し、次世代の経営人材を育てられているか。
- 個人は、柔軟な働き方を阻害されず、自律的なキャリアを形成し、能力を発揮することができているか。



## 対応の方向性

- 2030年、2050年の労働需要や、将来求められるスキル・能力の提示
- 熊本県の事例を参考にした、教育と採用・雇用がより一体化した人材育成戦略の検討
- 未来の日本を担う、イノベーション人材の育成・確保